

東日本大震災義援金

2011年3月11日、東日本大震災が発生し、広範な地域で甚大な被害が出ています。法徳寺では、本堂に募金箱を置き、お彼岸期間中たくさんの方々から、募金をいただきました。

また法徳寺が所属する厚木市仏教会主催の募金活動が、小田急線本厚木駅前で行われ、住職と、孫の英明が参加しました。英明が頑張って、大きな声を出して呼びかけてくれました。その際、お彼岸中に集めた義援金94680円をあわせて、仏教会に寄託してまいりました。

みなさまのご協力、感謝いたしております。



今後の行事予定

- 6月2日(木) ニコニコ法話会
午後1時30分～3時頃
- 7月1日(金) ニコニコ法話会
(7月は土日を避け、1日に行います)
午後1時30分～3時頃
- 8月15日(月)・16日(火)
お盆法要
(詳細は、次の法徳寺だよりに掲載します)

降誕会・永代経法要 親鸞聖人銅像 建碑法要

平成23年5月2日(月)
午後1時半～2時半頃

わたしたちの浄土真宗の宗祖である、親鸞聖人の、お誕生を祝う降誕会法要と、永代経法要、そして、親鸞聖人銅像建碑法要を合同で行います。

平成23年1月、親鸞聖人750回大遠忌法要にあたり、当山の念願でございました、親鸞聖人御像を京都よりお迎えいたしました。

5月2日に行われる降誕会法要において、親鸞聖人銅像の前で読経を勤め、参加者の皆様には、御香を供えて頂きます。

《法要に持参する物》

- 過去帳・位牌
- 読み上げ用紙 お念珠
- お経の本(お持ちの方)



法徳寺だより

第99号 発行
浄土真宗本願寺派
法徳寺
厚木市岡田5-4-12
TEL 046-228-3962
住職 伊東英俊
法話 伊東英幸
編集 伊東祐子

親鸞聖人750回 大遠忌法要

50年に一度のご勝縁！
世界遺産の西本願寺へ行きましょう！

いよいよ 平成23年4月9日からスタート。
法徳寺では、11月10日～11日に団体参拝へ行きます。
(別紙、参照)

先日、副住職が下見に行って参りました。
西本願寺では10年以上前から準備が進められ、開催を待つばかりでした。法要期間中は、普段は非公開の国宝の書院と飛雲閣、唐門が公開されます。
一生に一度の、こころに残る貴重な参拝へ行きましょう！



写真は、団体参拝の下見のため、西本願寺を訪れた副住職家族。



親鸞聖人750回忌
真宗教団連合40周年記念

親鸞展

生涯とゆかりの名宝
2011年3月17日(木)～5月29日(日)
京都市美術館



会場 京都市美術館
(京都市左京区岡崎円勝寺町124/ Tel.075-771-4107)
時間 9:00～17:00 (ただし入館は16:30まで)
休館日 月曜休館
料金 当日一般1300円 高大生900円 小中生500円

新門様 ご訪問



右側 - 大谷光淳新門様

平成二十三年二月十八日、大谷光淳新門様が、法徳寺を訪問下さいました。

新門様は、浄土真宗本願寺派、第二十四代、大谷光真ご門主の長男で、門主後継者です。

ご門主とは、西本願寺の住職であり宗派の最高責任者、浄土真宗の開祖 親鸞聖人の子孫である大谷家が代々勤められております。

平成八年には、ご門主様がご訪問下さっております。

当日は、教務所長様、相模組長様のご案内で法徳寺にご到着された新門様は、まず、本堂のご本尊様にお参りされ、それから、接待所に移られて寺族、門徒総代との話し合いに臨まれました。

住職からお寺の沿革や現状について報告、その後、自由な雰囲気で見聞交換させていただきました。

新門様が一番気にかけておられたことは、「お寺に、若い方もお参り下さいますか?」ということでありました。

浄土真宗のみ教えを次ぎの世代にどう伝えていくか、強い問題意識をもっておられました。

現在、法徳寺は、お参りの方々が多く有難いことではありますが、その方々の多くは、故郷で幼い頃から、お寺に親しんでこられた方です。

是非、ご家庭の中でも日々のご仏壇へのお参りする生活を受け継いで頂きたいと思っております。

法話

春季彼岸会法要では、三月十一日に起こった、東日本大震災の影響がある中、雨にも関わらず、たくさんの方に、お参りいただきました。法要では「法要の開会に先立ちまして、このたびの東日本大震災により被災され、お亡くなりになられました方々を偲んで、哀悼の誠を表しお念仏をお称えしよう」との言葉から法要を始めました。

今も、あの震災のニュースを見るたびに、あまりの厳しい事実には、ただ念仏申させていただくばかりです。

考えてみますと、大切な人を、大切に出来る時間は案外短いものです。しかし、この世で出会ったご縁は、たとえ、どちらかが、亡くなっても、切っても切れることはありません。亡き方の死を見つめるというこは、それは、残された者が、これからの人生をいかに生きるかを考えることです。

死ぬということは、人生最後の一番大事なこと、そして大変なお仕事ではないでしょうか。誰もが、苦しみながら、悲しみながら死んでいかねばなりません。しかし、それを見せることで残された者に、家族が健康で暮らし、一緒に笑ったり、泣いたり、喧嘩をしたりするこ

お釈迦様は、「人生は苦なり」とおっしゃいました。

「思い通りにならないのが人生」という意味ですが、お釈迦様は、あえて当たり前とも思えることを、おっしゃったのは、私だけではない、自分の人生、思い通りになる」とどこかで思っているからではないでしょうか。そして、どうすることも出来ない苦しみや悲しみが訪れるのが人生なのだということを、受け止めることが出来ていないからでしょう。

辛いとき悲しいとき、阿弥陀様や亡き方にお参りし相談してみてください、少しでも気持ち安らいだら、「いつか、護ってくれてありがとう、心配かけてごめんね」とお参りして下さい。

嬉しいこと、楽しいことがあったときも、報告をしてあげてください、きっと、「よかった、よかった」と喜んで下さいます。どうか、自分に与えられた役割をしっかりと演じきってください。

これからも、残された者が仲良く助け合い、強く明るく生きて下さい。皆さんが、悲しい顔をしていたら、阿弥陀様や亡き方も悲しむのです。亡き方のことは、阿弥陀様にお任せして、いつもの笑顔で頑張ってください。さよ

うならでお別れするのではなく、また、仏様の世界で会いましょう。私もいつか、この世のお役目が終わったら、仏様の世界に参らせて頂きますという思いを深めてください。

今回の震災によって、多くの方が、我が家を失いました。先行きの見えな

い不安を抱えながらの生活は、私の想像を超えたつらく厳しいものでありま

(法徳寺 副住職 伊東英幸)

